

平成30年5月11日
審判長 花岡 幸世

平成30年度広島県北部ミニバス連盟第1回審判講習会 総評

今年度第1回目の審判講習会に参加された皆様、大変お疲れ様でした。今年度、新たに審判活動を始めようと意欲をもって臨まれた方やだんだんと審判としての動き、見方が定着してきた方、着実にレベルアップをされている方など、例年以上に充実した講習会になったと感じております。

今回は、「基本的な動きの確認」「個々の課題の克服」というめあてで取り組んでいただきました。実際にゲームをふかれてみて、いかがだったでしょうか。

さて、今回ゲームを通して見られた共通的な成果と今後取り組む上でのポイントについてまとめて、総評にかえさせていただきます。

<全体を通して>

1. 正しい審判の合図（シグナル）

○「正しいシグナルを意識してふこう」という姿勢がよく見られました。

①ボールがアウトになった瞬間に、まっすぐ手を挙げてゲーム・クロックを止めましょう。手を挙げることで、相手審判に確認をする時間が生まれます。より正確な判定をするために、確認してから方向を示すようにしましょう。

②ファウルをTOへ伝達するときは「ラン・レポート・ラン」を心がけましょう。

(走って移動→立ち止まってからレポート→走って移動)

一つ一つの動作をゆっくり、はっきり示すことが大切です。また、チームの色と番号は必ず大きな声で伝えましょう。

2. ゲーム管理

○TOへの意識が高くなりました。とくに、タイマーや30秒計の確認が細やかにできるようになってきました。

①相手審判とのエリアや視野の分担が必要な場面がありました。例えば、オールコートでの受け渡しが必要な場面では、リードがセンターライン付近である程度ステイして、トレイルが追い付いたら受け渡すようにしましょう。また、3番エリアをどちらが見るかを2人で確認しながらプレイを見ましょう。(図1参照)

②スローインの前に、相手審判を見る習慣、OKサインを出す習慣を身に付けましょう。

3. その他

- ①笛を鳴らしたら、笛を口から離しましょう。コールをする時、笛をくわえたまましゃべってはいけません。
- ②アウト・オブ・バンズは、タイム・クロックを止めるために挙げた手と同じ手でディレクション（次の攻撃が行われる方向を示す）をしましょう。
- ③ファウルの3原則「接触の事実」「責任」「影響」について、いろいろなゲームで他の審判が取り上げたものを見て学び、自分の判定力向上につなげましょう。

<終わりに>

私たちは、お互いに審判であり、チームの指導者です。自分のチームの試合もあり審判もありという大変忙しい中で審判をしていくこととなりますが、そのゲームの審判を担当する以上、ゲーム管理のために適切な行動や試合に臨む準備をする等、正しい判定をするための最大限の努力をするように気を付けていきましょう。

毎年審判講習会をさせていただいていますが、皆さんの上達ぶりや向上心に本当に頭が下がります。普段、ゲームを見る視点も審判の視点で見られるようになってきたように感じます。私に寄せられる質問も、年々高度なもの、悩ましいものに変ってきました。私も質問に適切にお答えできるように、自分の審判を見ていただくことで範を示せるように研鑽を続けていきたいと思えます。

今後も試合が終わった後、相手チームや審判、お互いに感謝の気持ちをもって、笑顔で握手ができるような試合を共に創っていきましょう。

(図1) トレイル・リードの位置取り

